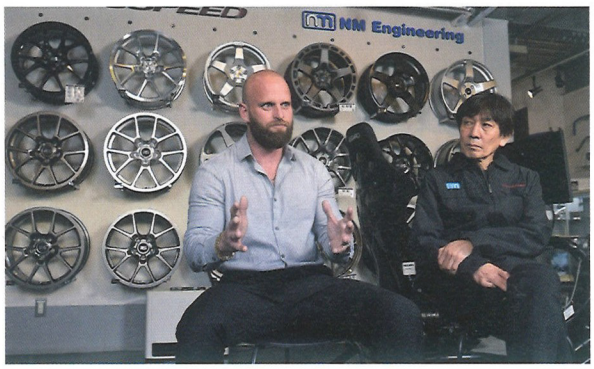
走りを進化させ続けた50年の系譜

NEUSPEED日本総代理店
>>> ISHIKAWA ENGINEERING
代表 **石川 隆** 氏



革新的なデザインと機能性を両立したNEUSPEEDのライトウェイトホイール

前身となる〝オートモーティブ・パフォーマンス・システムズ社〟を創業。アメリカでラビットというネーミングでゴルフ1型が登場し、同じプラットホームを使用した初代シロッコが発売された頃だ。ビル・ニュウマンはこれらのクルマを見て堅実なボディや優れたハンドリングを評価しながらも、さらに走りのクオリティを高めることができるアイディアを得た。そこからVW、アウディ、ホンダといったアメリカ市場にとっての輸入車チューニングへと進んでいくこととなった。

そんな〝ニュースピード〟が大きく発展したのは、ビルの息子たちであるゲイリー・ニュウマンとアーロン・ニュウマンが手掛けたデザインの革新やECUチューニングがベースとなっている。ゲイリー・ニュウマンが求めた品質の高さを実現するため、たとえばホイールで言えばリムを圧延して成型するフローフォーミング製法を実用化するなど、進化を続けてきた。

3代目社長であるゲイリー・ニュウマン・ジュニア氏は、家業に関わりはじめてからまだ5年ほどだそうで、実際年齢も35歳とまだ若い。しかし今回のインタビューを通じて、アメリカ人でありながら彼は、守破離の精神を理解しているであろうと感じられた。それを端的に表しているのは「今後のクルマはEVも含めて大きく変化をしていくでしょう。当然我々もこの変化にともなった進化をしていかなければなりません。といってもそのベースにあるのは補強系パーツやホイール、ブレーキシステムのチューニングといった、〝ニュースピード〟が得意としているものになります」という言葉だった。

業界全体を見渡してみても、これまでにないほど大きな変革の波が押し寄せてきている昨今。〝ニュースピード〟の持つ50年を超える歴史的な価値と、ブランドイメージを大事にしながらも、新しい時代に向けて進んでいこうとする若き経営者の展望について訊ねる機会を得た。